

藝園牧草



夕張形
雪印種苗株式会社
中央石

牧草の大家

ケイリング教授と語る

青山 永

六月中旬北海道における泥炭地開発の基本方針を確立するためのフランスから招聘されたドレーさんを團長とする一團が来札した。既に道内の目標地を調査したのである。

この一行の中にケイリングという日本でいえば國立農科大學に相當する（フランスには農科大學がない）農耕研修場の教授があつた。この人は牧草に関する大家であり、同時に畜産製造の權威として國際チーズ協會連合會の會長に推されている實際家でもある。町村敬貴氏の紹介で一日その宿舎を訪れ會見したが更にその翌々日、當社上野幌育種場に案内して親しくその所見をたたくことができた。一行はケイリング教授、ドレー團長、コラール、フランス領事、町村敬貴氏等で斯界における權威者の現地會談はまさに傾聽に値するものがあつた。次はケイリング教授の語つた一節である。次はケ

北海道では何故

農業と牛が離れて二本立てになつてゐるか

ケイリング教授は町村さんに紹介せられ

た最初の日、開口一番「私は北海道をよく知らないが世界的な酪農適地であるとおも

る野草地の繁茂を見て來たのである。牛と離れているというくらいだから収量の少い下に立ち止つて『これだ。これを沢山作らなければ駄目だ。クロバーと混播するのがよい。播種量は一ヘクタール（約一町歩）につきアルファルファ一二ポンド、クロバ

も低い農地の生産力と未用地の多いことに驚いたに違いない。「何故 酪農がない」短いが寸鉄骨を刺す日本農業への厳正にしてしかも皮肉なる批判だ。國際的儀礼にしてしかも皮肉なる批判だ。國際的儀礼に

「どうして農業と牛と離ればなれだ」言葉

増し、この家畜によつて土地への還元を多くの地力の増進はもとよりこれを維持することもできない。問題は土壤中の有機質をいかにして補給するかで、これは牧草と家畜とを一つに結びつけて家畜の力によつて還元する以外に方法はない。草地の不足な農業、草地と穀作のビッコの農業は必ず行詰る。だから草作を重視して単位面積からできるだけ多くの草を収穫すべきで、研修場では十五年前瘠せた禪畑を買つたが、いまでは近所の農家が皆振り返つて行くよう



上野幌育種場にて

先頭から——ケイリング教授。中野場長。
五十嵐専務。町村敬貴氏



彼はいふ……穀作と草作とのビッコは土壤を破壊する。農業經營のコツは出来るだけ草地の生産力を高めて養畜の頭數を殖やし、腐蝕土の多い土壤をつくり、有機質を充分に補給することだ……。

〔右からケイリング教授・町村氏・青山社長・左端ドレー團長〕

う。何故酪農がないか」また「どうして牛と農業が離ればなれに二本立ちになつてゐるか」という。これは私にとつてはまことに手痛い質問だつた。

この調査団はすでに道内の実地調査を終つている。不毛どころか幾万町歩の旺盛な

つづまれた穏やかな態度と謙譲な言葉ではあつたが私はこれに対してもなんとも答えることができなかつた。

穀作と草作のビッコ

上野幌育種場ではまず牧草の見本畑を案

な立派な畑になつてゐる。しかしに、その頃良い土地を持つていても、穀作と草作とがビッコの經營をしたために土地が瘠せてしまつて、遂に貧乏になつたものが居る」といつて、口を極めて牧草栽培の重

